

# 子どもの貧困 おとなの貧困 社会の貧困

## 現状と対応 私たちに求められていること

2016年に厚生労働省が行った国民生活基準調査によると、日本全体で子どもたちの7人に1人が「貧困」であることが明らかになりました。子どもの貧困は今、他人事ではなく、わたしたちに身近な問題として迫ってきています。

なぜ子どもの貧困が生まれるのか、また貧困は子どもにどんな影響を与えているのでしょうか。そして私たち大人は、子ども達のために何ができるのでしょうか。一緒に考えていきましょう。

平成30年

日時

2月17日 土

14:00~16:30

【13:30 開場】

参加費

無料

パネリスト

会場

兵庫県医師会館 2階 大会議室

神戸市中央区磯上通 6-1-11



※会場へは公共交通機関をご利用の上お越しください

北海道大学 教育学研究院

教授 松本伊智朗 氏

花園大学社会福祉学部児童福祉学科

准教授 和田一郎 氏

尼崎市尼崎学園

副園長 鈴木まや 氏

NPO 法人 CPAO

代表 徳丸ゆき子 氏



松本伊智朗 氏



和田一郎 氏



徳丸ゆき子 氏

お問い合わせ先 【主催】

兵庫県立ひょうごこころの医療センター 地域医療連携部 担当/古谷

〒651-1242 神戸市北区山田町上谷上字登り尾 3

TEL : 078-581-1013 (代表) FAX : 078-581-1005 (直通)

E-mail : koufuu\_hos\_08@pref.hyogo.lg.jp

## パネリスト 演題・要旨

松本伊智朗 氏（北海道大学教育学研究院 教授）

**演題** 『子どもの貧困を考える視点』

**要旨** 本報告では、①貧困の概念・定義と子どもの貧困、②子どもの貧困と家族・市場の関係、③調査にみる子どもの貧困、の3点をお話することを通して、子どもの貧困を考える視点を参加者と共有することを試みたい。

和田一郎 氏（花園大学社会福祉学部児童福祉学科 准教授）

**演題** 『子どもの貧困の社会的コスト』

**要旨** 子どもの貧困の影響については、様々な分野の研究者が精力的に研究報告をしている。今回の発表では、社会的コストという視点から、貧困の影響を可視化し、議論の一助としたい。

鈴木まや 氏（尼崎市尼崎学園 副園長）

**演題** 『社会的養護におけるファミリーソーシャルワークを通して見える貧困問題』

**要旨** 児童養護施設等社会的養護の下で暮らしている子どもたちやその家族が抱える課題及びその背景に見える経済的問題を通して、子どもが抱える貧困問題について考えたい。

徳丸ゆき子 氏（NPO法人CPAO 代表）

**演題** 『CPAOの現場から見えている子どもの現状やその応援』

**要旨** 現在、社会問題である子どもの貧困。子どもの夢や希望を奪い、さらに将来に渡る不利や次世代を越える「負の連鎖」から抜け出すことは困難です。現状や支援活動を通し、子どもの貧困問題について考えたいと思います。

## お申込方法

申込締切

平成30年2月15日（木） ※空席があれば当日でも入場可能です。

申込方法

「シンポジウム参加」と明記の上、①参加者名(フリガナ) ②参加人数 ③電話番号 を書いて下記へお申込ください

申込先

兵庫県立ひょうごこころの医療センター 地域医療連携部 担当：古谷

FAX

078-581-1005（直通）

E-mail

koufuu\_hos\_08@pref.hyogo.lg.jp

電話

078-581-1013(代表)

※手話通訳等ご希望の方は申込欄に○印を必ずご記入ください。ご希望の方の締切は**2月5日（月）**

※託児は行いませんが、お子様を連れての参加も可能です。

## 参加申込書（FAX用）

参加者名 (複数名記入可)	フリガナ	参加人数	人
連絡先	TEL (日中連絡がつく番号)	FAX	
手話通訳希望 ( )	要約筆記希望 ( )	磁気テープ希望 ( )	

\*ご記入頂きました個人情報は当院において厳重な管理のもと保管し、講演会のご案内の用途以外では使用いたしません。

定員を超えて、ご参加いただけない場合のみご連絡いたします。

ご参加いただける場合は当院からの連絡はありません。そのまま当日会場へお越しください。